

Title	移民とホームランド運営
Author(s)	許, 燕華
Citation	2015年度京都大学南京大学社会学人類学若手ワークショップ 東アジア若手人文社会科学研究者ワークショップ報告論文集 = 2015年度南京大学京都大学社会学人类学研究生论坛 东亚年轻人文社会科学研究者研讨会报告书 = The Proceeding of Kyoto University - Nanjing University Sociology and Anthropology Workshop, 2015 (2016): 82-82
Issue Date	2016-06-04
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2433/215811">http://hdl.handle.net/2433/215811</a>
Right	
Type	Article
Textversion	publisher

## 移民とホームランド運営

許 燕華 (XU Yanhua) \*

研究分野：移民研究、農村社会研究、東アジア研究

研究テーマ：移民とホームランド

研究対象：中国朝鮮族一人口の6割以上、農民の8割が、学歴・年齢に関係なく移動する。

フィールド：中国、韓国、日本

研究の位置づけ：

今日、グローバルな移民・移動がますます世界各地の人々の日常とかかわるようになってきている。こうした移動人口における最大の供給源の一つとしてグローバル・サウスにおける社会がある。これまでの移民研究では、どちらかといえば移民の移動先での状況、適応過程が主な研究対象となってきた。これに対して、移民研究の主流ではないが、移民とホームランドのつながりに関する研究もある。ディアスポラ研究、トランスナショナル研究、移民研究のなかの開発視点などはこれにあたる。これらの研究のなかで移民とホームランドは、支える/支えられる関係ではあるが、移民は送出したホームランドのコミュニティに対する実際の運営に、タッチしない/できないと認識されてきた。

しかし、今日、通信技術・コミュニケーションツールの発展により、移民とホームランドの関係は劇的な変化をみせている。本研究でとりあげる中国朝鮮族<sup>1</sup>農民の事例では、海外送金などを通じてホームランドを支えるだけではなく、遠隔地からでありながらも直接コミュニティの自治運営に参加することが観察される。移民は、外でもホームランド運営に関する情報を交換するようになり、ホームランドでは他者をリクルートすることで、移民がいない部分を埋めようとしている。また、この入れ替えは、単純な入れ替えではなく、協同秩序を構築することで、村の農地と社会が保持されている。これは、従来におけるホームランド研究では、まったく説明がつかない現象である。

---

\* 京都大学大学院文学研究科博士後期課程。

<sup>1</sup> 「中国朝鮮族」は中国五六民族の一つとして中国籍を所有している。中国東北部に集中居住し、なかでも吉林省南部の延辺朝鮮族自治州(首府延吉市)に約七三万人が集中している。本文ではマジョリティである漢族に対して使うときは「中国」は外し「朝鮮族」を使う。